

イカナゴ情報 No.2 (2020年6月)



令和2年6月29日

道総研

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 佐藤・堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

漁獲物調査: 6月上・中旬は体長20~22cmが主体

6月上・中旬の漁獲物標本を測定したところ、2020年は体長20~22cmの個体が主体となっていました(図1)。近年、この時期の漁獲は2015年に漁獲された小型個体(14~19cm)が成長したもの(2016年:20cm、2017年:20~21cm、2018年:21~22cm、2019年:21~23cm)が主体でした。2020年はそれらが成長した大型個体(22cm以上)に加えて、2019年に17~18cmで出現した小型個体が成長したと考えられる20~21cmの個体も多く漁獲されています。さらに少数ながら小型個体(18cm前後)も漁獲されており、これら複数の年級群が2020年の漁獲を支えていると考えられます。

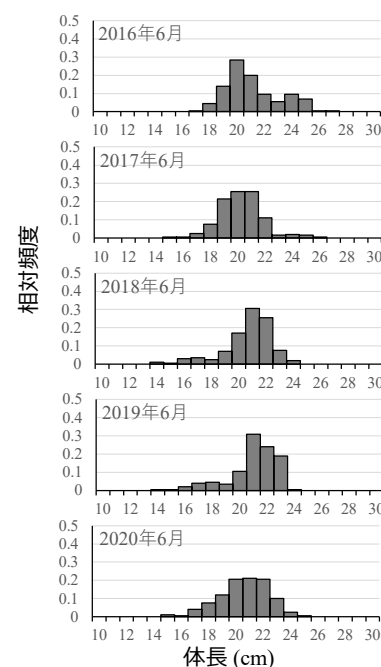


図1. 稚内で水揚げされたイカナゴ類の6月上・中旬の体長組成。

海洋観測: オッター・かけまわし漁場ともに底層水温は昨年より高め

宗谷海峡東方海域において6月22~25日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を実施しました(図2)。

観測ラインの水温断面図をみると、ラインAではO15からIS01(水深30~40m)の海域は水温10℃以上となっていました。オッタートロールの主漁場となるIS02からIS04(水深50~80m)の海域での底層水温はおおむね6~8℃であり、2018・2019年と比較すると高めで、特に水温が低めだった昨年と比べると2~3℃高い状況です。

ラインBでの、沿岸域の水温は11℃以上で2018・2019年と比べて高めで、沖合域でも3℃程度高めとなっていました。かけまわしの主漁場にあたるIS11からIS09(水深40~60m)の海域は8~11℃と、近年に比べて高めの傾向となっています。

※現在、イカナゴ情報 No.1 でお知らせしていた水温ブイのデータ配信を一時的に休止しています。再開時には、またお知らせいたしますのでよろしくお願いたします。

¹ イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる (Orr et al., 2015)

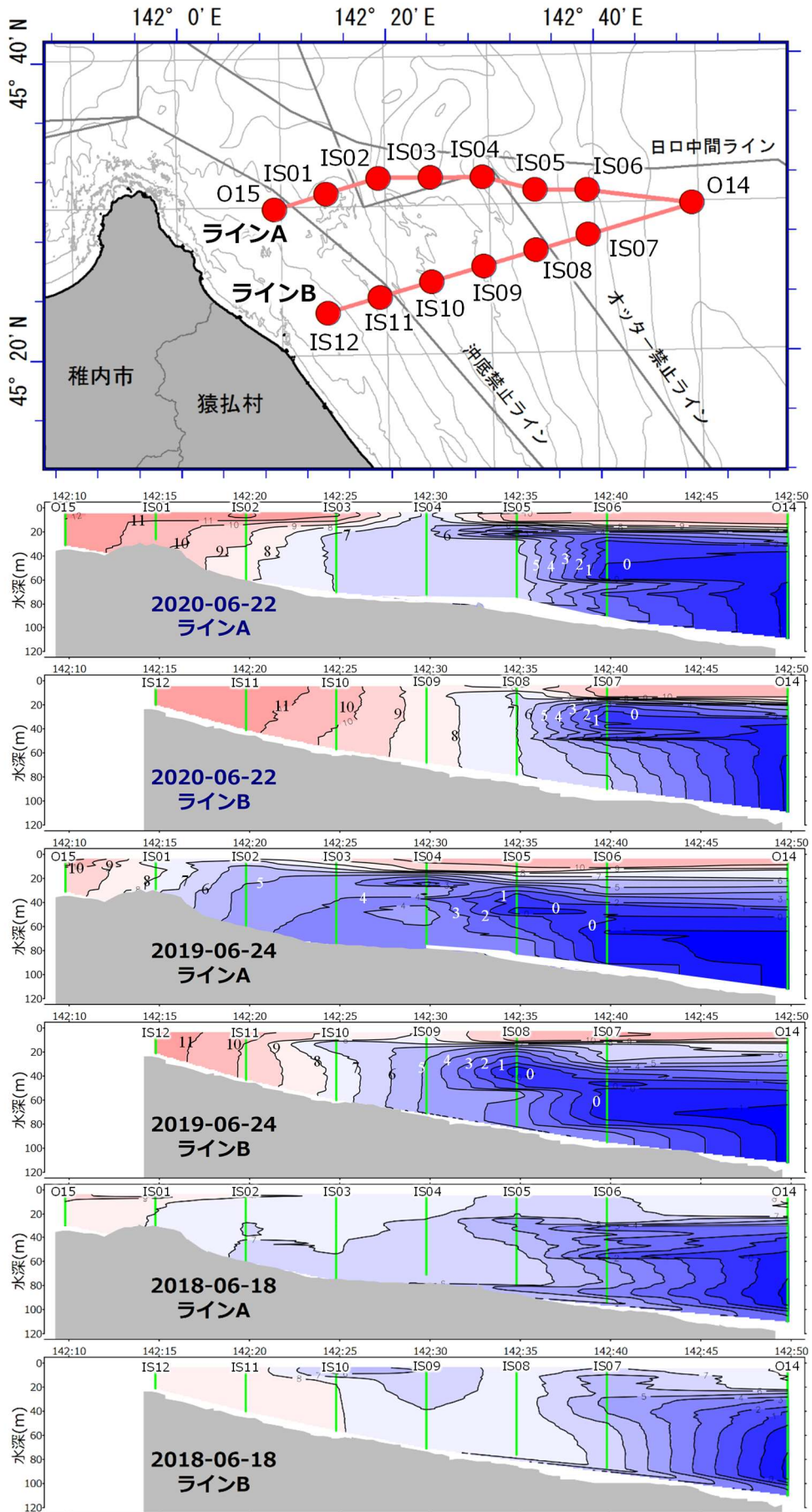


図2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と最近3年の水温断面図.

魚探観測：水深 50～75 m の表中層に複数の魚群反応を確認

海洋観測と同じラインで計量魚群探知機による魚群分布調査を実施しました(図 3)。

ライン A では表層～深度 40m 付近にイカナゴ類とみられる魚群反応が複数観測され、水深 75m の海底付近にも小規模な反応が観測されました。ライン B でも水深 50～75 m の海底付近と表層～深度 30m 付近にイカナゴ類とみられる魚群反応が複数観測されました。

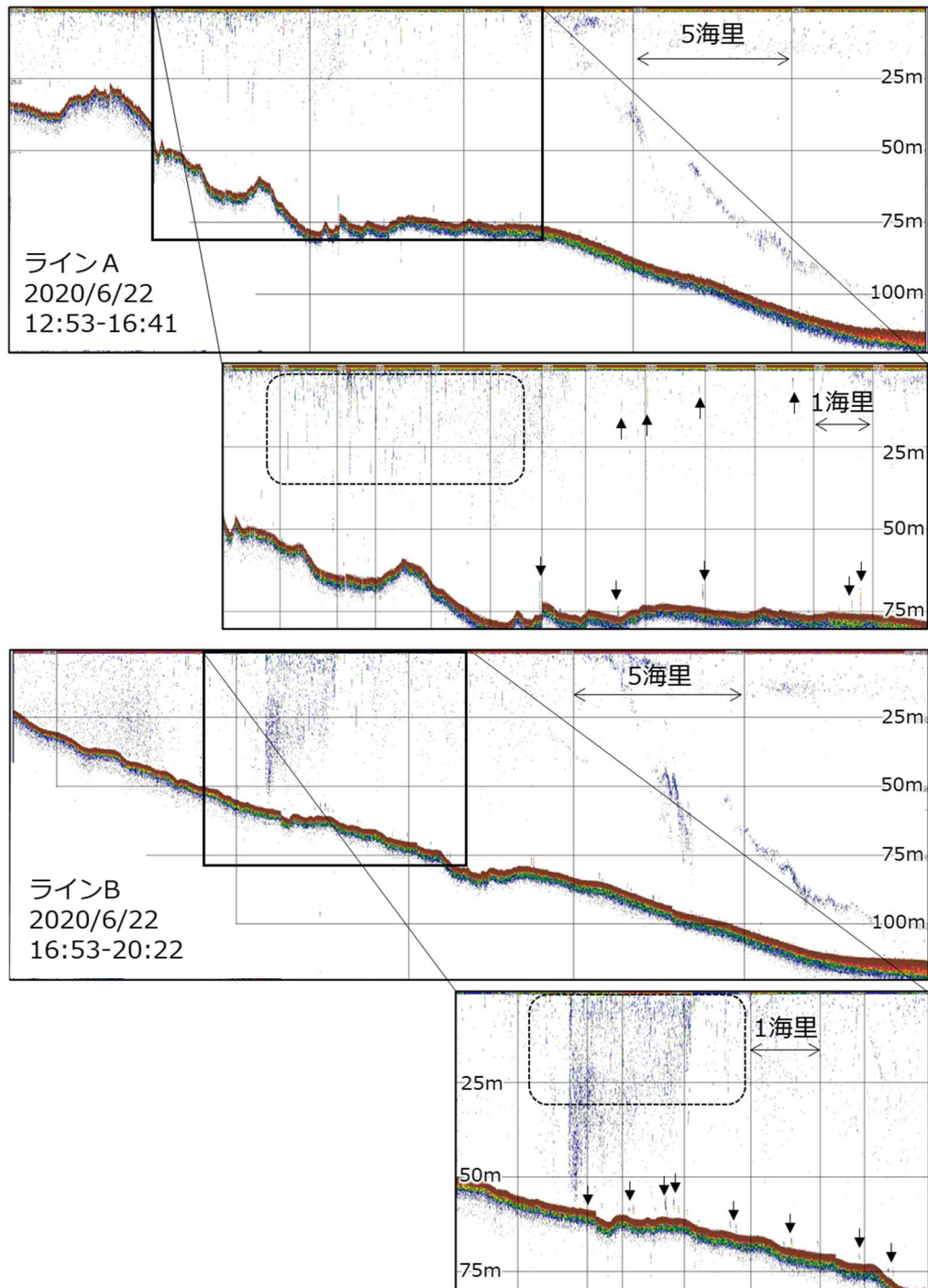


図 3. 各観測ラインにおける魚探反応図. 各ラインの右下図は黒枠内の拡大図. イカナゴ類とみられる魚群反応を黒矢印と点線枠で示した.